



2021年11月25日  
バイオ研究グループ

## JST 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型に採択されました

### 1. 採択されたプロジェクト（拠点）

#### （ア） 拠点名称

炭素循環型社会実現のためのバイオエコノミーイノベーション共創拠点

#### （イ） プロジェクトリーダー

東京農工大学 大学院工学研究院 卓越教授 養王田 正文

#### （ウ） 代表機関・参画機関

- 代表機関：東京農工大学
- 参画機関（大学など）：弘前大学、長岡技術科学大学、早稲田大学、産業技術総合研究所、**地球環境産業研究機構**、日本工学アカデミー
- 参画機関（企業など）：三菱ケミカル株式会社、東京都、太平洋セメント株式会社

#### （エ） 拠点ビジョン

炭素循環型社会の実現

#### （オ） 拠点ビジョン概要

本拠点は、これまでのバイオエコノミーの“限界を超える”技術を開発し、社会実装することで、炭素耕作による炭素循環型社会の実現を目的としている。農学と工学の研究者が一体となって技術開発を行い、企業や海外の研究者と協力することで社会実装まで発展させる真の意味での共創の場を実現し、従来の経済主導による炭素収奪型から、人と環境、社会の新たな価値の創造が介在する炭素耕作型への社会の進化の基礎を築く。さらに、東南アジア諸国と連携することにより、日本発の炭素耕作技術による炭素循環型社会の実現を目指す。

(カ) 関連する SDGs :

- 2 : 飢餓をゼロに
- 7 : エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 13 : 気候変動に具体的な対策を
- 14 : 海の豊かさを守ろう
- 15 : 陸の豊かさを守ろう
- 17 : パートナリシップで目標を達成しよう

(キ) RITEの役割

RITE バイオ研究グループの乾将行グループリーダーは、研究開発課題3のリーダーとして本プロジェクトを推進する。

- 研究開発課題3の参画機関：地球環境産業技術研究機構、弘前大学、東京農工大学
- 研究開発課題3のテーマ名：「バイオマス燃料技術開発」
- 研究開発課題3のターゲット：ゼロエミッションバイオマス燃料供給システムの確立

2. 本 JST 事業 (COI-NEXT) の概要

(ア) 事業

共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)

(イ) 事業概要

- ウイズ／ポストコロナ時代を見据えつつ、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に基づく未来のあるべき社会像 (拠点ビジョン) を策定。その達成に向けたバックキャストによるイノベーションに資する研究開発と、自立的・持続的な拠点形成のために必要な産学官連携マネジメントシステムの構築を同時並行で推進する。
- これを通じて、大学等や地域の独自性・強みに基づく産学官共創拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進する。

(ウ) 事業期間

- 本格型：最長10年度
- 育成型：2年度 (最終年度に本格型への移行評価を行う)

(エ) JST サイトでの令和3年度新規採択プロジェクトの発表：

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1528/pdf/info1528.pdf>

(オ) 本 JST 事業 (COI-NEXT) のサイト：

<https://www.jst.go.jp/pf/platform/>

以上